

持続可能な社会の探究1 音楽のグローバル化

芸術科（音楽） 原 大介

1. はじめに

本稿では、2018年4月から2019年3月にわたって行われた「探究I 音楽のグローバル化」（以下、「音楽のグローバル化」とする）の授業の総括と、授業の集大成として行われた成果発表会の報告をする。

「音楽のグローバル化」において到達目標として設定したのは、1.探究力、2.活用力、3.論文力の3点である。さらに、「芸術科（音楽）」が、「総合的な探究の時間」といった課題解決型の新しい科目とどのように関わることができるのかを探ることも目的とした。

2. 本講座設置の背景と目的

人工知能が人類を超越するといわれる「シンギュラリティ」を迎えるにあたり、音楽や美術等の「芸術」が人間形成のために不可欠となることは論を待たないであろう。しかし現在では、高等学校において芸術科の授業数が全国的に削減されるなど、芸術教育自体の存在意義が問われていると言える。

新学習指導要領では、芸術科（音楽）の目標として「音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成」することが示された。さらに、新設科目である「総合的な探究の時間」では、「課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付ける」こと、「課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする」こと、「実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。」こと、「探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う」ことが目標として掲げられた。

本講座では、これらの目標を考慮しつつ、本校のSGH構想として掲げられている人間像（グローバル女性人材として、自国の文化を含む多文化理解、共感力、協働精神を有し、国際社会の平和と持続可能な発展に寄与する意欲と能力を持つ人材）を構築するため、以下のとおり指導目標を設定した。

1. 日常意識せずに接している「文化」や「音楽」の中から、課題を見つけること（探究力）
2. ディスカッションやディベートなどを通じて、自分の思いや意図を表現するスキルを身につけること（活用力）
3. 自分の思いや意図を論文として表現すること（論文力）

3. SGH 成果発表会

3-1 今年度の活動内容

「音楽のグローバル化」講座は年29回、計58時間行われた。1学期はおもに、わ

れわれを取り巻く文化的・音楽的な様々な話題から、現在直面している課題を見つけだし、問題意識を持つこと、また、その解決方法を探るために、対話を通して情報を共有したり、先行研究を調査・理解することに重点をおいた。各時間に設定した題材は、「研究とは何か」「論文とは何か」「課題を見つけ仮説をたてよう」「議論のまとめ方」「研究題目を設定しよう」「レジュメを作ろう」「効果的なプレゼン資料を作ろう」「論文を作ろう」といったものである。

2学期は主に「ゼミナール方式」によって、ディスカッションやディベート等による議論を重ね、論の構築について実際に体験する活動に重点をおいた。また、3学期は、1年間に得た知識や情報をもとに、実際に論文を執筆するために必要となる要件や、適切な論文の形式について学ぶことに重点を置き授業を進めた。生徒が設定した論文のタイトルは以下のとおりである。

- ・ストレス発散方法における音楽の効果について
- ・自閉症者のコミュニケーション障害改善～音楽療法の有効性を検討する～
- ・神楽におけるウェブコンテンツとその効果・活用について
- ・幼児期における音楽教育について
- ・太平洋戦争下における米英音楽の排除-新聞記事の変化について-
- ・BGMとしての楽曲仕様における著作権規制-規制の現状と緩和案-
- ・小学校音楽科教育における歌唱教育についての考察

生徒はそれぞれ7ページ程度の論文を執筆し、52ページ、表紙、裏表紙をつけて冊子にまとめた。

3-2 成果発表会 発表について

午前は、「音楽のグローバル化」講座のあらままと、各人が執筆した論文について10分ほどにまとめたものを、大学講堂で発表した。課題やテーマが設定しづらいと思われる音楽や文化について、中高生にもわかりやすく説明がなされた。他の講座とは違い、全員の研究成果について触れる程度であったため、より詳細な研究内容について伝える手段を得ることが今後の課題である。

午後は音楽室にて、来年度「音楽のグローバル化」を選択予定の1年生に向けたガイダンスが行われた。作成された論文集をもとに、それぞれの研究について内容を掘り下げながら各10分ほどの説明がなされた。

4. おわりに

新指導要領で示された各教科の「見方・考え方」、つまり、課題を探究する能力や思いや意図を表現するスキル、文章に表すスキルについては、成果発表会、あるいは論文作成によって一定の成果を得たと思われる。

これらの成果をもとに、芸術科（音楽）の存在意義については、以後も継続的に探っていく必要がある。他校の芸術科（音楽）の様子、あるいは各教科における「主体的・対話的で深い学び」の実践例を調査し、芸術科（音楽）のありかたについて問題点を洗い出し、今後の芸術科（音楽の）の学習内容を精選することが今後の課題である。